

ネパールを通して 私たちの生き方を見つめ直そう！

国立行政法人
広島大学附属東雲中学校

神原 一之

●教科●
数学

実践教科：道徳・総合
対象学年：中学1～3年 対象人数：260名

実践の目的

- ① 青年海外協力隊のネパールにおける活動（学校保健衛生プログラム）を通して、国際協力について考えさせる。【授業① 1年・2年 道徳】
- ② ネパールの生活風景（衣・食・住）を推察することを通して、異文化を理解しようとする態度を涵養する。【授業② 特別支援学級 総合】
- ③ ネパールの生活風景（衣・食・住）を推察することを通して異文化を理解させる。また、青年海外協力隊のネパールにおける活動を知ることによって国際協力に対する理解を深める。
【授業③ 3年 総合】

授業①の構成

1・2年道徳【1年1組39名、1年2組40名、2年1組40名、2年2組40名】

各クラスに以下の目標、配当時間で実施した。

目標

- ① 日本の特質（「豊かさ」「貧しさ」）について考えさせる。
- ② 青年海外協力隊のネパールにおける活動を知り、国際協力について考えさせる。

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	「豊かさ」と「貧しさ」をどう捉えるのか？ 日本の「豊かさ」「貧しさ」について自分なりの考えを持つ	(1) 日本の「豊かさ」と「貧しさ」を象徴する写真または新聞記事をそれぞれ1つずつ選ぶ (2) (1)について選んだ理由を考える	自作ワークシート
2	青年海外協力隊の活動を知り、国際協力について考える	(1) 自作教材「もうひとつの風に立つライオン」を読み、ネパールの事情を知らせる	(2) 青年海外協力隊の活動を通して、国際協力の難しさとすばらしさを考えさせる

この授業に注目！

②眼目 もうひとつの風に立つライオン

シャンジャにおけるHさんの活動を見聞きしたとき、偏狭な地、古い慣習の残る地で活動する彼女の生き様を生徒たちに伝えたいとすぐに思った。

しかし、学校で授業時間を取れたのは特活（特別活動）ではなく道徳の授業ということで、教材「もうひとつの風に立つライオン」（資料1）を作成した。

H隊員は、学生時代に出会った外国人差別に憤りを覚え、他国の文化を理解することが大切と考えて青年海外協力隊に応募した。赴任したネパールでは自分の理想と現実とのギャップに悩み

ながら夫の待つイギリスに一時帰国する。しかし、揺れる気持ちを乗り越えてネパールに戻った。そして、赴任先で生理を不浄とする慣習があることに衝撃を受けた彼女は山村の学校で性教育を実施する。

戸惑い葛藤しながらもネパールの文化や慣習を排除し先進国の知識・技術を押しつけようとするのではない彼女の国際貢献の姿勢から、生徒自身の生き方を問い直させることをねらいとして、以下の指導案をもとに授業を展開した。



写真1 H隊員の授業風景



写真2 1年生の道徳 授業風景

生徒の反応

- ・教材を真剣に読み、ネパールの現状について大まかに理解することができた。
- ・日本と異なる文化をもつことに多くの生徒が興味をもっていた。
- ・異文化を否定するのではなく、理解しようとする姿勢が大切であると考えた生徒が増えた。
- ・Hさんの心情を理解しようとする姿勢が多く見られた。
- ・Hさんの生き方に感銘を受けた生徒が多かった。
- ・Hさんの生き方を通して、人のためにいきたいと考える生徒が多くいた。
- ・この授業を終えて、国際貢献できる仕事についてみたいという思いが強くなったという生徒が数名いた。

所感

真剣に授業に望む生徒たちのまなざしと対峙しながらの授業となった。ネパールの国勢や文化、慣習に驚きながら、その中で活躍する日本人の存在に生徒たちは感銘を受けていた。Hさんの生き方から、「人のためになる生き方をしたい」、「ネパールの国がHさんのような人たちのおかげで発展する日がおとずれると思う」という感想が多く見られた。

ただし、ネパールと日本を比較しながら「今に感謝しながら精一杯生きたい」、「いろんな国人々と仲良くしたい」などの感想もあった。1時間の授業をH隊員に焦点を絞ったので、ネパールの文化、自然のすばらしさ、人々のやさしさについては十分に触れることはできなかった。

また、本授業実施中は広島大学から教育実習を受け入れている期間であり、多くの教育実習生が授業を参観した。彼らもまた異文化理解、国際協力について考える良い機会となったようである。

<第2時道徳の指導案>

	学習活動 主な発問 (○) 予想される生徒の反応 (・)	指導上の留意点 (●)
導入	<p>1. ネパールについて知っていることを表出する。</p> <p>○ネパールという国を知っていますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国旗が三角形 ・貧しい ・アジアにある ・ヒマラヤ山脈 	<p>●本時は、筆者がネパールの旅行で出会ったすてきな人について一緒に考えていくことを伝える。</p>
展開 1	<p>2. 資料「もうひとつの風に立つライオン」を読んで話し合う。</p>	<p>●資料を理解しやすくするために、音読を区切りながらさせ、記述と写真の補足説明を加える。</p>
	 <p>(1) 1 頁目 1 行目から35行目</p> <p>○この中で誰がHさんでしょう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・右端 ・中央の人 	<p>●この写真の段階では、Hさんが日本人であることを明かさない。</p>
	 <p>○ヒマラヤ山脈の最高峰の山の名前は？その山は標高何mですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エベレスト（チョモランマ・サガルマータ） ・標高8848m 	<p>●エベレストはネパール語ではサガルマータ（世界の頂上）ということ、植村直己、田部井淳子などの著名な登山家が登頂していることなどを解説する。</p>
	 <p>・ある日の私の昼食です。ダルバートとよばれるカレーライスのようなものです。</p>	<p>●味はおいしく、ルーの種類が豊富であることを伝える。全ての人々が貧しい暮らしをしているのではなく、格差が大きな社会であることを理解させるようにする。</p>
 <p>(2) 1 頁目36行目から 3 頁目 4 行目</p> <p>○写真の人たちはどこに向かっているの？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登山 ・ハイキング 	<p>●学校の通学路である。雨が降れば道がなくなるような厳しい状況で1時間以上かかっても、学ぶことができることに感謝しているネパールの子どもたち、家事労働の隙間を縫うように学ぶ子どもたち、女性差別が残るなか懸命に学ぶ子どもたちがいることを説明する。</p>	



- 写真を見て何か気づくことは？
- ・年齢の違う子どもが一緒に学んでいる
 - ・制服が大きいので配給されている
 - ・壁が土のよう

- 小学生も英語で理科や社会を学んでいること、彼らの学びを支えるNPOがあることを伝える。



- ・ネパールの地方には、初潮が来れば汚れということで穴に閉じこめられ、生理がくると不浄ということで、その人が触った食べ物や水には触れないというような慣習が残る場所もあることを説明する。

- 初潮や生理についての慣習は、特に女生徒にとっては衝撃的な話であるので、生徒の反応を見ながら慎重に話すようにする。



- (3) 3頁5行目から最後まで
- Hさんはどこの国の人ですか
- ・イギリス
 - ・カナダ
 - ・ネパール
 - ・もしかすると日本人

- Hさんは日本人であり、イギリス人のご主人と結婚され、新婚であることや夢を実現していくために青年海外協力隊に応募してネパールに派遣されたことを補足説明する。

3. イギリスに戻ったHさんの気持ちを考える。
- Hさんがイギリスに戻ったときはどんな気持ちだったのでしょうか？
- ・ほっとした
 - ・満ち足りた生活に安心するが、これでいいのかと揺れる
 - ・ネパールの子どもたちのことが気になる。
- あなたがHさんならもう一度ネパールに戻りますか？
- ・子どもたちのために戻る
 - ・電気もある、おいしい食べ物もあるイギリスの方がいいから戻らない
 - ・旦那さんと幸せな新婚生活を送りたいから戻らない
- なぜHさんはネパールに戻ったのでしょうか？
- ・不合理な慣習や文化を改善したい。
 - ・子どもたちのために何かしたい。
 - ・現実を親てしまったから何とかしたい。

- 自分の考えをワークシートに記入させる。
- 揺れ動く彼女の気持ち分かるように、対比させて板書する。
- Hさんに同化させて考えさせる。

展開 2	<p>4. ご主人の気持ちを考える。 ○あなたがHさんのご主人ならどうしますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥さんの夢が叶うよう後押しをする。 ・危険な場所に奥さんを行かせたくないから止める。 <p>5. 授業が終わったときのHさんの気持ちを考える。 ○性教育の授業を終えたHさんはどんな気持ちだったでしょう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やってよかった。 ・ネパールに戻ってよかった。 ・これを他の地域でも広めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●夫（妻）という状況が分かりづらいようであるなら、家族としてどうするか考えさせる。 ●自分の考えをワークシートに記入させる。 ●状況に応じて、ネパールの生徒の保護者は、この授業を受けることについてどう思うのかたずねてみる。
終末	6. 今日の授業をふり返り考えたこと感じたことを記述する。	◆夢に向かって力強く歩むHさんの生き様から、国際協力や自己のあり方を見つめ直すことができたか。

授業②の構成

特別支援学級 総合的な学習の時間 【1年3組7名、2年3組8名、3年3組7名】

合計22名の特別支援学級に在籍する生徒全員を対象に、以下の目標、配当時間で実施した。

目標 ネパールの生活風景（衣・食・住）を推察することを通して、異文化を理解しようとする態度を涵養する。

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	ネパールの中学生に日本のことを伝えよう ・日本の文化の特徴について考える	(1)日本の生活を絵で紹介する。絵の解説を言葉で説明する	
2 ・ 3	ネパールはどんな国か？ ・ネパールの国の特徴を考える	(2)写真からネパールの具体的特徴をつかむ (3)与えられた情報（衣装・紙幣・紅茶・楽器）から、ネパールという国にすむ人々を想像する (4)学んだネパールについて、家族に紹介する絵はがきをかく。	撮影した写真・映像 民族衣装・楽器 紙幣 紅茶 絵はがき22枚

この授業に注目！

②・③ 眼目 ネパールはどんな国か？

特別支援学級22名を対象に、ネパールの特徴を推察する授業を第2時限に位置づけた。民族衣装を着せたり、コインや紙幣にさわったり、紅茶を試飲したり直接体験を始めにさせた。その後、数枚の写真をもとに日本との相違点を発表させた。また、ネパールの特別支援学校の学びの様子をビデオで視聴した。これらの一連の学習を通して、ネパールについて印象に残ったこ

とを絵または作文でまとめた。

生徒の反応

- ・ネパールの民族衣装を着ると、「軽い」「綺麗」とその素材の特徴を表現する生徒がいた。
- ・写真の中に、日本との相違点を見いだそうとする生徒が予想以上に沢山いた。特に街中に自然にいる牛やFUJICOLORなど日本の企業名が見られることに驚いていた。
- ・河辺で洗濯する人、公衆洗濯所で洗濯する人、家の洗濯機で洗濯する人がいることから、格差がある社会であることを感じる事ができた。
- ・ネパールの特別支援学校を含め、ネパールの学校の様子にはほとんどの生徒が関心を示した。訪問したネパールの特別支援学校には年齢制限がないことを知り驚いていた。
- ・かっぱえびせんの値段が130ルピーであることをさほど違和感なく受け取った生徒たちであるが、化粧品の値段やトマトの値段の安さと比較すると高いことに気づき、日本との価格の違いや決定のされ方に興味を持つ生徒がいた。
- ・ネパールのミルクティーは生徒の口に合わないようで不評であった。香辛料（マサラ）がきつかったのだろう。



写真3 特別支援学級の授業の一コマ



写真4 販売されていたスナック

所感

衣装や楽器、紅茶、紙幣など具体物を用意し、五感に触れるように心がけた。普段直接的に見ることがないネパールの衣装の肌触り、軽さ、色の鮮やかさには特に感動していた。また、撮影した写真を見せながら日本とネパールの違いを考えさせた。

「信号機はなぜ消えているのかな?」、「煉瓦でできた家の壁に穴があるのはなぜ?」のようにクイズを出しながら展開した。特別支援学級の生徒にとっても、1枚の写真からも想像を超える予想や発見があり、教師の感覚を通して撮影された写真には強烈な印象があるようである。

生徒一人ひとりに配ったネパールの絵はがき（その多くはヒマラヤの写真）には、「すごい、夏にも雪があるの?」、「きれいな山!!」など反響が大きかった。絵はがきを自分の家にする学習は、これまでの学校での学びを総合する課題であり、本時の学習のまとめとしてふさわしいものであったと考える。

ネパールの生活（衣・食・住）に触れることで、日本と違う生活があることを知り、今の生活に感謝することばを授業後に多く聞いた。このことから、この授業を通して生徒たちは自分や自分の生活を見つめる機会となったと考える。

授業③の構成

3年総合的な学習の時間 【3年1組39名、3年2組40名】

各クラスに、以下の目標、時間配分で実施した。

目標② ネパールの生徒たちの考え方を知ることを通して、「価値観の違い」について考えさせる。

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	自分の生活や考えを見つめよう！	アンケートを元に、自分の思いや考えを整理させる	自作アンケート
2	ネパールはどんな国か？	(1) ネパールの基本情報を知る (2) 写真からネパールの具体的特徴をつかむ (3) 与えられた情報から、ネパールという国に住む人を想像する	「地球の歩き方ネパール」 撮影した写真・映像
3	日本人とネパール人の価値観の違いを考えよう	(4) 日本の中学生とネパールの中学生に実施したアンケート結果を予想と比較させながら両国の中学生の特徴を考察する (5) 「価値観」にどのような違いがあったのか？ なぜ「価値観」の違いが生まれるのか考察させる (6) ネパールまたは後発開発途上国に対して自分ができることを考える	現地で購入した紅茶 アンケート結果



写真5 CWIN 授業風景

この授業に注目！

第2時限

右のような写真（B4版）を4人班に1枚ずつ配布した。その写真を見て、写真から発見できる事実を付箋紙にできるだけ多く書き込み、その事実から想像できるネパールについて班ごとに発表させた。

1枚の写真から得られる情報は限られており、各班の発表を総合して捉えることで、ネパールの全体像（社会的側面、文化的側面、歴史的側面、地理的側面）が把握できるように工夫した。他者（他国）を一面的、ステレオタイプの捉えるのではなく、多面的に、具体的に捉えていくことの重要性を理解させるようにした。

第3時限

3時限の始めにネパールで購入した紅茶を全員で試飲しながら、視察した学校の様子を紹介した。

次に、本校生徒（第3学年80名）とラトバンガラスクールの生徒（16～18歳50名）を対象にしたアンケート結果のうち7項目（資料2：最近やってみたいこと、家庭での役割、幸せだと感じるとき、悲しいと感じるとき、あなたにとって大切なこと、将来の夢）について比較した。自分たちと価値観の相違を知ることで、ネパールの人々を同じ人間としてより身近な存在として捉えることができるようにさせた。

2時限・3時限の授業の最後に、授業をふまえて「ネパールまたは後発開発途上国に対して自分ができること」を記述し、記述内容を交流した。



写真6 3年生総合 授業風景1



写真7 3年生総合 授業風景2

生徒の反応

第2時限目

- ・例えば、写真5を見て、生徒の服が身体より大きいこと、ノートが皆同じであることから配給もしくは寄付されたものではないか、また、左前の女の子と斜め後ろの女の子の年齢が違うように見えることから年齢でクラス分けされていないことなど1枚の写真から多くの気づきを抽出していた。
- ・事実から予想されるネパールの事情について、貧富の格差や豊かな文化の存在を挙げている生徒が多かった。
- ・1枚の写真から得られた情報と他の班から発表された情報を元にネパールの国について総合的に捉えられるようになった。
- ・日本の状況と違うストリートチルドレンの存在、家事労働者、野良牛、火葬の文化、川での洗濯、交通事情など驚きが大きかった。逆に、日本と同じような物の多さや似た服装、コココーラなどの外国からの食料品などについても意外だった。

第3時限

- ・東雲とラトバンガラの価値観の比較（表1）は興味深い題材であった。
大切だと思えることがラトバンガラの方が豊かであるように生徒たちは感じているようだった。しかし、将来の夢ややってみたいことには似ている内容が多いことに親近感を覚えていた。
- ・自分たちに比べてラトバンガラの生徒たちの方が真剣にものごとを考えているのではないかという感想を持った生徒も多い。

- ・自分ができる国際貢献については、ただ物やお金の提供ではなく、ネパールの人々の声を聞きながら、実状にあった援助ができる人になりたいと応える生徒が多くいた。
- ・ネパールの生徒と自分を比較し、今の恵まれた環境にあることに感謝し、真剣にいきいきしたいという感想が多く見られた。

表1 東雲中学校・ラトバンガラスクールへのアンケート結果
「あなたが大切にしたいことは？」

東雲（80名）			ラトバンガラ		
1位	勉強	12人	1位	・家族	19人
2位	人との人間関係	11	2位	・友達	13
3位	生きているということ	10	3位	・勉強・教育	11
4位	運動すること（スポーツすること）	8	4位	・仕事	8
5位	睡眠	7	5位	・自分	3
6位	家族	5	6位	・お金	2
7位	友達とのコミュニケーション	4	6位	・よい成績	2
8位	一生懸命がんばること	2		・その他	13
8位	人を大切にすること	2			
8位	あきらめないこと	2			
8位	友達	2			
8位	漫画	2			
8位	パソコン	2			
8位	夢や希望	2			
	その他	15			

所感

1枚の写真から情報を見だし、その情報を根拠にネパールの国勢をイメージさせる活動は、生徒の主体的な学習を促進させることに繋がった。1クラス40名を10グループに分けて活動させたので、学級として10枚の写真を準備した。まだまだ紹介したい写真がある中、どの写真を教材として選択するかかなり迷った。現地での印象深い人々の生活や文化はあまりに多く、その中でネパールに対するイメージが偏重することなく伝わるように配慮した。この活動では、生徒たちが教師の話を受け身で聞くのではなく、自分の目で観察しようとする態度が醸成され効果的だったと感じている。

事前に行ったアンケートを両校で比較することを通して、価値観の相違を感じさせることができた。遠いネパールの人が同じ人間として共感のもてる存在として感じたり、尊敬できる人間として捉えたりすることができていた。できれば、特定の学校だけではなく、ネパールにおいて幅広くアンケートを実施できると偏りが無かったと思うが目標を達成することはできた。ネパールにおいても、日本の子どもたちの価値観を伝えるべく準備をしてみたが、バンダ（※首都のストライキで学校訪問がキャンセルとなった）などの障害のため、実現することができなかったことは残念だった。

全体を通しての成果と課題

筆者は学級担任ではないため、各クラスからいただけた2～3時間の短い時間と限定された領域という制約の中で授業を計画し、実践した。

同じアジアでありながらネパールについてはほとんど何も知らなかった生徒たちにとって、今回の授業は刺激的で興味あふれる授業になったと感じている。通常の教育活動の中では、知ること・考えることのないネパールを通して、国際理解や国際協力についてその認知が深まったようである。

反面、短時間で指導したため、筆者が現地で見たとネパールという国のよさや課題を十分に伝えることは困難であった。本校では、アメリカ2校、インドネシア1校と姉妹校提携を結び、相互訪問や総合的な学習の時間を通して、国際理解学習を進めている。この度の授業を契機として生徒たちが、ネパールをはじめとする後発開発途上国へ興味や関心を持ち、自ら調査・探求してくれるように学習を展開していくことが課題である。

「もうひとつの風に立つライオン」

神原 一之 作

Hさんはネパール中央部のシャンジャ郡にある600校のうち、数校を巡回し、その学校の教師やチャイルドクラブ（注1）と協力して学校保健や栄養に関する啓発プログラムの企画・運営支援をしています。

ネパールという国を知っていますか？

ネパールは南アジアに位置し、あの世界最高峰のエベレストを有する国です。北は中国、南はインドに囲まれ、国土の8割が山岳地帯にあります。1996年から2006年まで内戦が続き、2008年に約240年間続いた王政が廃止され、共和制に移行しました。しかし、まだ憲法がない国です。

国民の25%が貧困です。彼らは飲み水も満足に飲めない状況です。ネパールの国全体の経済規模は鳥取県の65%程度（注2）しかありません。ネパールで働く人々の最低賃金は、月額6200ルピー、日本円で7000円ほどです。100ルピーもあればお腹いっぱい食べることができます。

ネパールでは、食事を1日2食、朝と夜にとります。ダルバートと呼ばれる日本のカレーを水で薄めたようなルーをご飯によくかき混ぜて右手で食べます。左手は不浄という文化があるからです。このダルバートのような食事をとることができるのは比較的裕福な家庭で、わずかなトウモロコシや草のくきを食べている家庭もあります。

小学校に約90%の人が進学します。そのうち男子は54%の人が中学校に進級します。女子やダリッドと呼ばれるカースト（注3）の人たちは、もっと低い進学率です。授業は10時から始まり、16時くらいまでです。ネパール語、数学、理科、社会、保健・人口・環境、英語などはどの学校でも学びます。60%の学校にしかトイレがありません。

Hさんは、カナダの大学で学びました。そこでたくさんの国籍の友人ができました。国籍を超えて多くの若者が語り合う仲のよい学校社会にみえます。しかし実際には、〇〇人だから…という理由で、他の国の学生を軽蔑し、排除している社会がここに隠れているのです。

「これはおかしい。なぜいわれもなく外国の学生たちが差別されなければならないのだろう。国籍がその人を決定するのではないし、外国にも素晴らしい文化や歴史がある。みんなが幸せに暮らせる世界を築くために生きていきたい。いろいろな国の人々が友好的に暮らせるような世界になるために、私は異文化を理解できるようになろう。まだまだ私は世界を知らない。もっと他の国を見てみたい。そうだ、協力隊に参加すれば発展途上国の暮らしが見える。大学を卒業したら青年海外協力隊に参加しよう」と思いました。

イギリスの男性と学生結婚したHさんは、大学を卒業するとご主人と相談し、青年海外協力隊に応募し、単身派遣先のネパールへ渡航します。

初めて訪れたネパールの僻地は、電気もない、水も安全に飲めない想像を超えた異国でした。「異文化理解をこの国の人たちに促進していくなんで私が考えていたほど甘くはない。この国にはすてきな文化もあるけど、私には絶対認められない文化がある。なんで意味もないのにカーストを理由に、女子を理由に差別するのだろう。ひとりぼっちで言葉が十分通じない異国で仕事をするなんて私にはできないのかも…。」

Hさんはご主人が待つイギリスに帰りました。電気のある明るい暮らし、おいしい食事に安全な水、便利な交通網、何一つ不自由はありません。「愛する夫と暮らす幸せに満ちているこの生活でも、このままここにいていいのだろうか…」と天井を見上げました。

思い悩むHさんの脳裏には村の子どもたちの顔がちらつきます。穴に閉じこめられた衝撃的な話を語る少女の顔…。電気のない教室の中でも美しい瞳を輝かせて学ぼうとする子どもたち…。1時間以上もかけて山道を登って学校に通ってくる兄弟…。

「やっぱり今の自分にできることを精いっぱいやってみるべきだ。自分が今しかできないことをやってみよう。」とご主人に話すと、「がんばっておいで」とネパールに送り出してくれました。

今日は、巡回した学校で性教育をします。この学校で性教育は行われていませんでした。生徒たちは性について正しい知識をもっていません。生徒ばかりかこの村の大人たちも正しい知識を持っておらず、血を不浄とする古い慣習があります。学校の先生たちに性教育が必要なことを丁寧に説明し、やっと受け入れてもらったのです。

生徒たちにネパール語で質問をしながら「大人になること」について、心と体の両面から一緒に考えていきます。そして、受精してから誕生するまでの母胎の変化、胎児の変化を1枚1枚丁寧に書いた絵を示しながら解説していきます。

授業を終えた生徒たちは笑顔でこう答えます。「学んで良かった」、「学ぶことは楽しい」「勉強できるってすばらしい」…。

授業を終えたHさんは笑顔でこう語っていました。

「この国の子どもたちは一生懸命学んでいます。私もここで仕事をさせていただいて多くのことを学んでいます。この国も必ず発展します。この子たちがいるのですから。私は、先進国の知識や技能を押しつけるのではなく、この国の実状に合うように一緒にいい方法を考えていきたい。」

ここにも開発途上国で活躍する風に立つライオンがいました。

(注1) 児童・生徒の自治組織。衛生や栄養に関する活動を進めている

(注2) 鳥取県の経済規模…3400億円、財政力指数45位

(注3) カーストは身分や職業を規定している。カーストは親から受け継がれるだけであり、生まれたあとにカーストを変えることはできない。

(備考) 本稿は、実際に筆者がHさんにネパールでインタビューした事実をもとに脚色を加えたものです。

参考資料

【書籍】

・地球の歩き方編集室 (2010) 「地球の歩き方ネパール2010」ダイヤモンド・ビッグ社

【映像資料】

・現地で撮影した写真及びビデオ

【インターネット】

・「風に立つライオン」 <http://www.youtube.com/watch?v=TTYZn1EVWl0>